

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	県央福祉会	代表者	村山 裕子	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・法人は、高齢者福祉施設・障がい者福祉施設・保育園など幅広い分野を運営している。 ・事業所は、家庭的な雰囲気の中で、利用者が自発的に行動し、楽しみのある生活を送れるよう、見守り、寄り添い、介護支援を行っている。 ・地域との交流を大切に、地域行事、施設行事など相互に参加する機会を持ち、また、認知症介護の拠点となるよう、講師派遣や体験学習受入など行う体制となっている。
事業所名	ライフケア花みずき	管理者	折原 寛子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	1人	1人	人	4人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者・家族アンケートの継続実施。更に家族との情報共有のツールである療養手帳には、事業者側から積極的にコメントを記入し、情報の発信に努めると共に、送迎時等にも積極的に話す機会を設け、家族との連携を深め、思いを聞き出せるよう努める。職員の意向の聞き取りの継続をし、資質の向上に努める。	家人に伝えたい事は療養手帳に記入し、更に必要な事は電話で伝えている。送迎時や訪問時など、積極的に会話や挨拶を行うよう心掛けた。定期会議で職員が担当利用者について要望や意見、考えを出し合ってケア内容を検討している。年2回の面接時に職員の意向を聞き取り、個々の目標等の話し合いの機会を設けている。	前回の改善計画に対して、具体的な取り組みが、分からない。	初期支援の段階で、家族に療養手帳の意義を説明し、連絡ツールであることを伝え、積極的に活用する。家族との連携を図る為、送迎や訪問時など施設での様子等を伝え、会話を持つよう心掛ける。施設内研修は開催内容や日時など情報を掲示板に貼り、職員の希望を聞き参加を勧める。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染対策を行った上で、安心、安全に楽しめる行事を工夫して行うと共に、壁面装飾を工夫し、施設内でも季節を感じ、楽しく過ごせるよう努める。また、感染対策に配慮した机の配置やしつらえと共に、落ち着ける空間を提供していく。	花壇や畑で育てたお花を、テーブルに飾ったり、季節の壁面装飾を利用者と一緒に作り、和やかな落ち着いた空間を提供できた。	事業所内での行事や壁面装飾等スライド上映で、確認できたが、コロナウイルス感染対策の為、実際に施設内へ入ったことは無く、良く分からない。	感染対策を講じながら、季節の行事を工夫して行うよう努める。施設内でも四季を感じてもらえるよう、利用者と一緒に楽しく、壁面装飾を製作する。居心地の良い空間を提供できるよう、努める。
C. 事業所と地域のかかわり	事業所便りとカフェ紹介同時配布の継続と、効果的な配置場所の検討を行う。また、地域包括支援センターとの更なる連携に努める。	認知症カフェは可能な限り実施することができた。参加人数も少人数ではあるが少しずつ増えてきた。小学校の行事にも参加することができた。	事業所は地域の中には、浸透している。気軽に、相談できる場所の周知がもう少し必要ではないか。	継続的な事業所便りの配布と、定期的な認知症カフェの開催で地域との関わりを継続していく。小学校や地域行事にも可能な範囲で参加していく。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	しっかりアセスメントを行い、利用者の思いをくみ取れるよう努め、感染対策を行った上で地域に出向けるよう工夫する。また、認知症カフェの普及に努め、地域の方が気軽に参加できるカフェを企画する。	一部の利用者にはセンター方式でアセスメントを行ったが、全利用者に活用できていない。定期的に認知症カフェを開催することができた。	利用者と小学校行事の参加や地域へ出向く事は出来ている。利用者以外の地域の心配な方に対して情報共有しながら関わってほしい。	センター方式でのアセスメントの実施。そこから、利用者の意向や馴染みの地域へ出向ける支援へ繋げる。地域の方の集まりに、出向き認知症カフェの広報を行う等、周知に努める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	事務局側は、運営推進会議時に検討頂きたい内容を予め考え、話題提供できるよう努める。また、誰でも発言しやすいよう、豊富な話題の提供に努める。	事業所便りに関する苦情を、運営推進会議で検討できた。	事業所の取組み等は分かりやすく説明されている。地域の心配な方等の事例検討は分からない。	事業所の取組みは引き続き、スライド等で分かりやすく説明する。地域の困りごとや心配な方等の話合いも取り入れながら豊富な話題提供に努める。
F. 事業所の防災・災害対策	防災教育時にテント設置、発電機稼働内容を盛り込み、実践する。研修に、設備確認・操作研修を設ける。感染対策を含めた災害時要援護者の受け入れマニュアル整備を行う。	防災教育でテント設置、発電機稼働の研修を実施した。夜間想定での防災訓練では、地域の方に参加してもらい実施できた。	事業所の防災計画は説明されている。災害時、地域住民に対する事業所の役割を整備してほしい。	防災教育にて消防設備の使用方法、操作訓練等実施する事で、全職員が緊急時に確実に行動できるよう訓練する。災害時要援護者の受け入れを確認する。